

2017年11月21日

高等教育キーパーソン各位

地域科学 KKJ セミナーニュース 472

学修成果可視化の取組みと実際

～直接評価と間接評価／成績評価・判定とアセスメント／教学改善～

ご参画・ご派遣のお願い

振り返ると、昨年度、大学の教学面における大テーマは「3ポリシーの策定」でした。小会KKJでも、セミナーを複数回開催し、多くの大学教職員の皆様にご参画賜りました。

各学部学科において、学生が身につけるべき知識・スキルを具体的到達目標として掲げ、それを達成するための教育を行い、学生の学修成果を的確に把握し、成績評価・卒業判定することにあります。そこで、学生の学修成果をどう「見える化」するか、つまり、どのような指標で測定・評価するのが最大の課題となっています。

各大学において、種々な取組みがスタートしております。エビデンスとして、直接指標（評価）－間接指標（評価）なのか、評価データの違いによる量的評価－質的評価があります。ルーブリックは質と量の双方から評価しているといえます。また、個々の教員による科目レベルの評価とともに、教員団の参画・合意によるプログラムレベル及び大学レベルの評価が重層的に行われることとなります。

本セミナーでは、この「学修成果の可視化」について、先進的な取組みを行っている4大学のキーパーソン氏から、ご講義及び実践のご報告を賜ります。

先進的な取組みを行っている玉川大学の菊池氏からは、そもそも「学修成果の可視化」とは何を目指しているのか、そして、可視化の望まれるかたちについて、玉川大学における取組みも交え、基調となるご講義を賜ります。

産業能率大学の杉田氏からは、授業における教員と学生のパフォーマンスを測定したスタッツデータ、授業外の学習時間などの学習行動データ、知識・技能・態度の3側面から把握した学修成果の分析等に基づく、学習行動改善に向けた取組み、そして、今後の課題についても、ご報告を賜ります。

金沢大学の上畠氏からは、学生の実態を把握するために行ったアンケート調査やインタ

ビュー調査、学修ポートフォリオ・カルテシステムの運用、学修支援・学生支援に関わる学生バックアップ・ポリシーの策定という実践を通して、「学生中心」の「学修成果の可視化」に向けた取組みについて、ご報告を賜ります。

お茶の水女子大学の半田氏からは、複数の大学間における学修行動調査「ALCS」、先進的なWeb授業アンケートシステム、そして大学の授業に関連した学修と、授業とは直接かかわらない個々人の自主的な関心にもとづく学習や研究を包含したポートフォリオを総合的に利用した、学びの検証、促進の取組みについてご報告を賜ります。